

イネ科通信 5

畝傍御陵観察会 (2012.8.31) より

野生ヒエについて

(a) 生育地

- 1. 水田のみ タイヌビエ、ヒメタイヌビエ
- 2. 水田を含む低湿地 イヌビエ (ケイヌビエを含む)
- 3. 路傍・畑地を含む乾燥地 (中生地) ヒメイヌビエ



イヌビエ

(b) 特徴

タイヌビエ

第1包穎長は小穂長の1/2~3/5であるが、ほかの野生種の第1包穎は小穂の1/2よりも短く、第1包穎の形状についてもタイヌビエと区別できる。

また、タイヌビエの小穂長は4~5mmで日本の野生種で最も大きい。第1小花外穎の形質についてタイヌビエに2型、C型とF型がある。C型の第1小花は革化膨出し、光沢があるが、F型にはこのような特徴がなく、第1小花の外穎はざらつき平べったい。C型は普通無芒であり、太平洋側の水田にみられ、F型は有芒で日本海側の水田中に多く見られるという傾向がある。

ヒメタイヌビエ

第1小花外穎はタイヌビエのC型と同様の特徴を示すが、小穂がより小さく、第1包穎の形状についてもタイヌビエと識別される。無芒であるが、まれに短芒の型がる。

ヒメタイヌビエは小穂長2.4~3.0mm、無芒で稈の細い小型の植物である。

イヌビエ

植物体の色、芒、穂型、穂の色、小穂の大きさ、葉の幅、稈の太さ、草型、出穂期などの諸形質について豊富な連続変異を示すきわめて多様な種類である。

* 野生イヌビエの同定には下図の第一包穎が重要です。

(注) ケイヌビエは、イヌビエの有芒型である。芒の長短はイヌビエの多型現象のひとつである (下図右)。

出典：ヒエという植物 (全国農村教育協会) * 下図も左記の本から転写しました。



タイヌビエ C型

